

# 青森市の都市公害について

木 村 美智子

## Ⅰ 序 論

市政が施かれて以来、政治・経済・文化等あらゆる分野において発展してきた青森市は、県庁所在地として中心的役割を果たしている。その都市化に関する考察は、様々な角度からなされているが、都市化に伴って生ずる公害についての考察はあまり見られない。また、公害は、特に最近急にクローズアップされてきた「時の問題」であることなどの理由から本題を設定した。

研究の方法としては、住民の苦情から地域に発生する公害の種類と場所を明確にし、その結果を分析・検討することによって公害の原因や性格をみてみることにする。

また、本論で扱う公害の概念は、公害基本法第2条に規定されているものとし、これによると、公害とは、事業その他の人の活動に伴って生ずる相当範囲にわたる(1)大気汚染、(2)水質汚濁、(3)土壌の汚染、(4)騒音・振動、(5)地盤沈下及び(6)悪臭によるもので、人々の健康又は、生活環境に係る被害が生ずる場合の6種類ということになる。

## Ⅱ. 公害の現況について

### A. 騒音

本市は、本州と北海道、表日本と裏日本を結ぶ交通の要路で、市の中心部を国道4号線と7号線が東西に横切る商業中心の都市であり、大工場は少ないが小規模な工場・事業場が相当数市内に散在しているため、苦情も多くなっている。

### B. 振動

振動は、各種公害の中で騒音と並んで日常生活に関係が深く、その発生源も多種多様で住宅と工場の混在、工場等の機械施設の大型化、建設工事の増加、モータリゼーションの進行に伴って振動公害が問題となっているが、本市においても建設工事、道路交通から発生する振動が問題となっている。

### C. 悪臭

悪臭公害の特色は、騒音・振動と同様人の感覚に直接訴えるものであり、古くから市民の健康で文化的な生活をそこなうものとして問題にされてきた。

近年、市民の生活水準の向上に伴って生活環境の質的向上についても関心と欲求が高まってきたこと、スプロール的な住宅地の拡大が養豚場や養鶏場、水産加工場等と住居を近づけてきたことにより、市民の悪臭に対する苦情は、毎年高い比率を占めるようになった。

### D. 大気汚染

青森市は、商業都市であるので工場等からの汚染は少なく、自動車、ビルの暖房施設からの汚

染が主で、特に冬の長い本市では、冬期間のビル暖房による汚染が目立つ程度である。従って、農繁期のわら焼スモッグ以外は殆んど問題はない。

#### E. 水質汚濁

青森市を流れる主要河川は、浅虫川・野内川・堤川・新城川等の10河川であるが、野内川・堤川以外の河川は、清澄な水量に乏しく、そのほとんどが自己浄化力より大きい都市排水の汚濁水が流入するため、水質の汚濁を招いている。特に近年住宅地の郊外への発展にともない雑排水やし尿処理といった日常生活の汚濁水によって、河川の汚濁がひどくなっている。

#### F. 地盤沈下

本市においては、昭和47年の国土地理院の水準測量や県の測量の結果によって、海岸線が大きく沈下していることが確認された。

市では、揚水量の節減を図るなど採取規制を行い、また節水の義務づけをするなど地盤沈下対策を推進した結果、鈍化の傾向を示してきている。

### ■ 公害と地域との関係

ー公害苦情発生状況からみてー

#### ①公害苦情発生状況の概要

##### イ). 月別・種類別の状況

青森市の公害に関する苦情は、53年度では、全部で86件となっている。その内訳は、図1に示すように、騒音43件（50％）、振動7件（8％）、悪臭23件（27％）、大気汚染10件（12％）、水質汚濁・地盤沈下・その他が各々1件（1％）となっており、騒音、振動、悪臭が8割以上を占めており、この傾向は従前と変わらない。

時期的には、騒音・悪臭ともに7月が最も多く、全体の4割近くの苦情がこの時期に集中している。次いで、8・9月の順となっており、降雪期の12・1・2月は少ないという結果になっている。

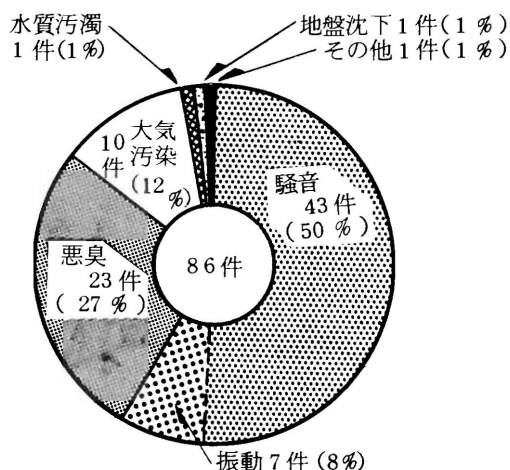


図1 苦情内訳（53年産）

##### ロ). 業種別の状況

発生源を業種別にみると、表1のとおりで、「塗装業・石油ガソリンスタンド・その他の工場」が圧倒的に多く、次いで「建設・工事現場」となっており、「旅館・飲食店・一般家庭・その他」も苦情の発生源となっていることも見逃せない。

また、騒音では、一般工場・建設作業・飲食店業から発生する騒音に苦情が集中しており、振

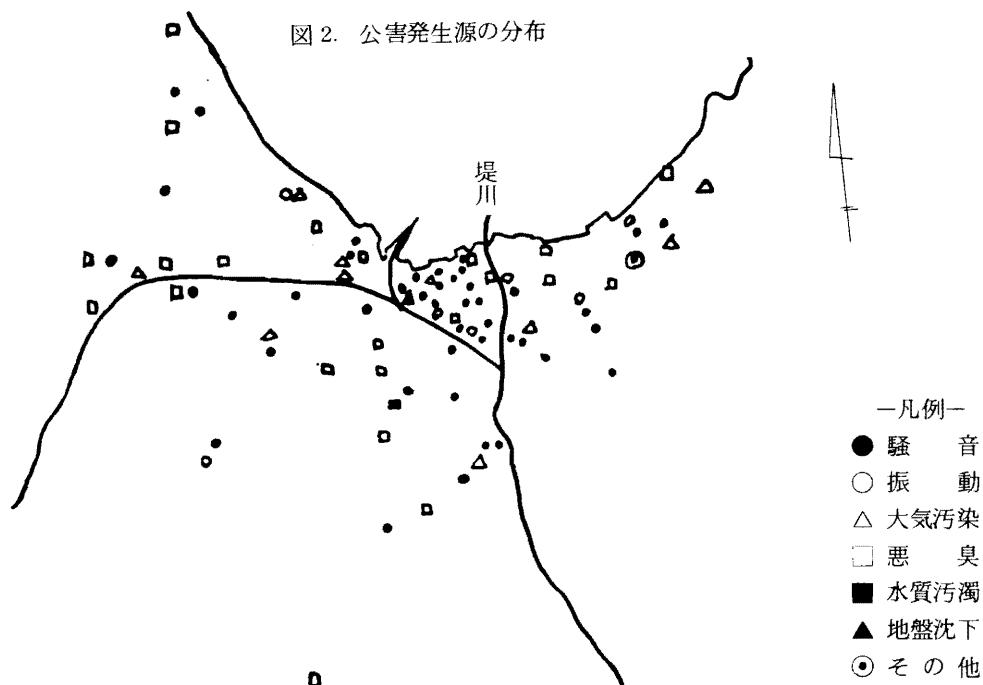
動では殆んどが工事現場からのものである。大気汚染では、製材所・ふろ屋のばい煙に係るもの  
が多く、悪臭では、塗装工場・ガソリンスタンドに係るもの、次いで養豚などの畜産業となっ  
ている。

表1 業 種 別 状 況

業 種 \ 種 別	騒 音	振 動	悪 臭	大 汚 染	水 質 汚 濁	地 沈 盤 下	その他	計
食 品 製 造 業	1		2		1			4
木 製 品 製 造 業				5				5
鋳 業	1			1				2
水 産 加 工 業			2					2
建 設 ・ 工 事 現 場	15	5	1					21
畜 産 業			6					6
塗装業・石油・ガソリン スタンド・その他工場	14		9	1				24
自 動 車 工 場	1							1
道 路 ・ 河 川 ・ 側 溝		2						2
旅館・一般家庭・その他	11		3	3		1	1	19
計	43	7	23	10	1	1	1	86

## ② 地域別状況

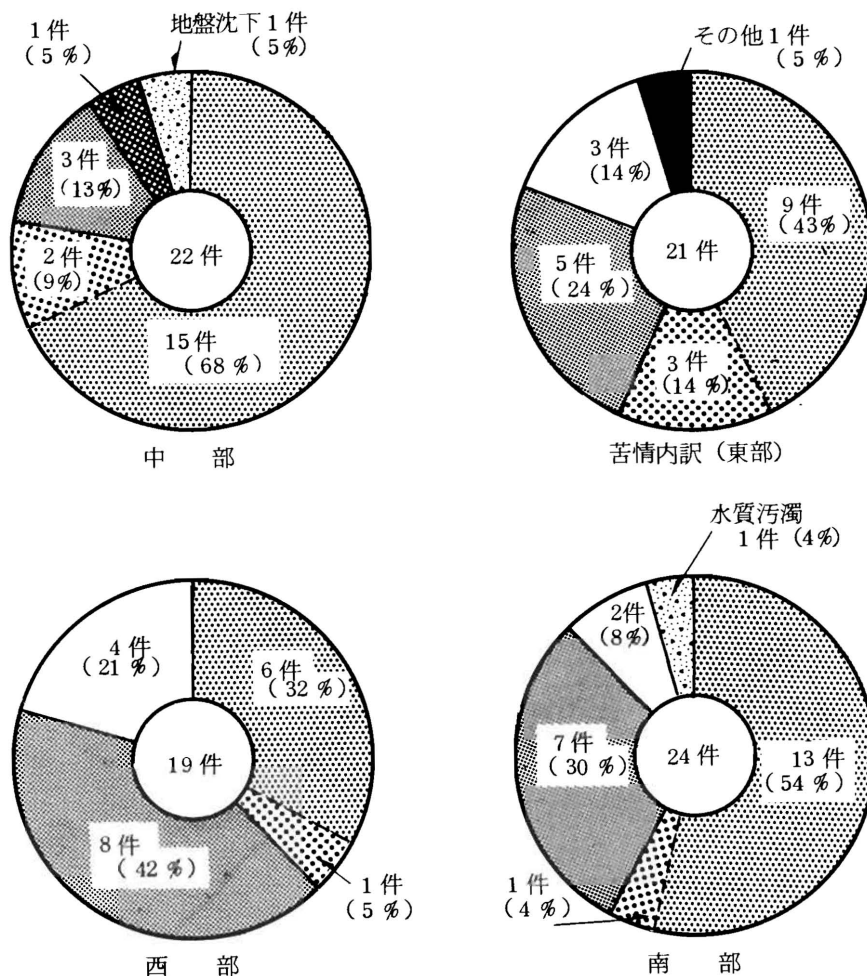
本市を4つの地域、つまり、(1)堤川以東の東部地域、(2)堤川～古川跨線橋の中部地域、(3)古川  
跨線橋以西の西部地域、(4)東北本線、奥羽本線以南の南部地域に分け、各々の特徴、性格をみる  
ことにする。(発生源の分布は図2参照)



### (1) 東部地域

本地域に発生した苦情は、図3に示すとおりで、騒音が半数近くを占め次いで悪臭が多くなっている。騒音は、建設工事現場からのものが多く、中小ではあるが自動車整備工場も発生源となっている。振動では、自動車整備工場の他に、都市計画線の舗装未整備のためのいわゆる道路公害もみられる。また、悪臭では、肥飼工場、造船所が発生源となっている。

図3 地域別苦情内訳



### (2) 中部地域

県庁をはじめ諸官庁、金融機関が集中するこの地域は、他地域に比べ騒音に係る苦情が7割を占めているのが特徴である。(図3参照) 騒音では、他地域が一般家庭の住宅建設が主なのに対して、この地域ではビル建設に係るものが多く、また、雑居ビルからの騒音もこの地域からのみ発生している。さらに、バー・キャバレーの深夜営業のための騒音もみられる。大気汚染におい

ても、ビルが立ち並んでいるため、冬期間のビル暖房が原因になっているのも特徴的である。

### (3) 西部地域

この地域は、畜産業との関係から悪臭が約半数を占め、次いで住宅建設のための騒音の苦情も多い。また、この地域は、伝統的な製材業地域であるため、大気汚染に係る苦情もみられる。

### (4) 南部地域

この地域に発生した苦情は、図3のように、他地域より若干多く、内訳は、都市のスプロール化に伴う住宅建設による騒音の割合が半数を越えている。この傾向は、今後さらに増えると思われる。また、西部地域と同様、畜産業関係から悪臭の苦情も多くなっている。

### ③ 都市構造との関連から

発生源の分布(図2)と用途地域の分布(図4)を照らし合わせた結果、つまりどの地域にどんな苦情が多いかということをもとめて表2に示した。

図4 用途地域の分布

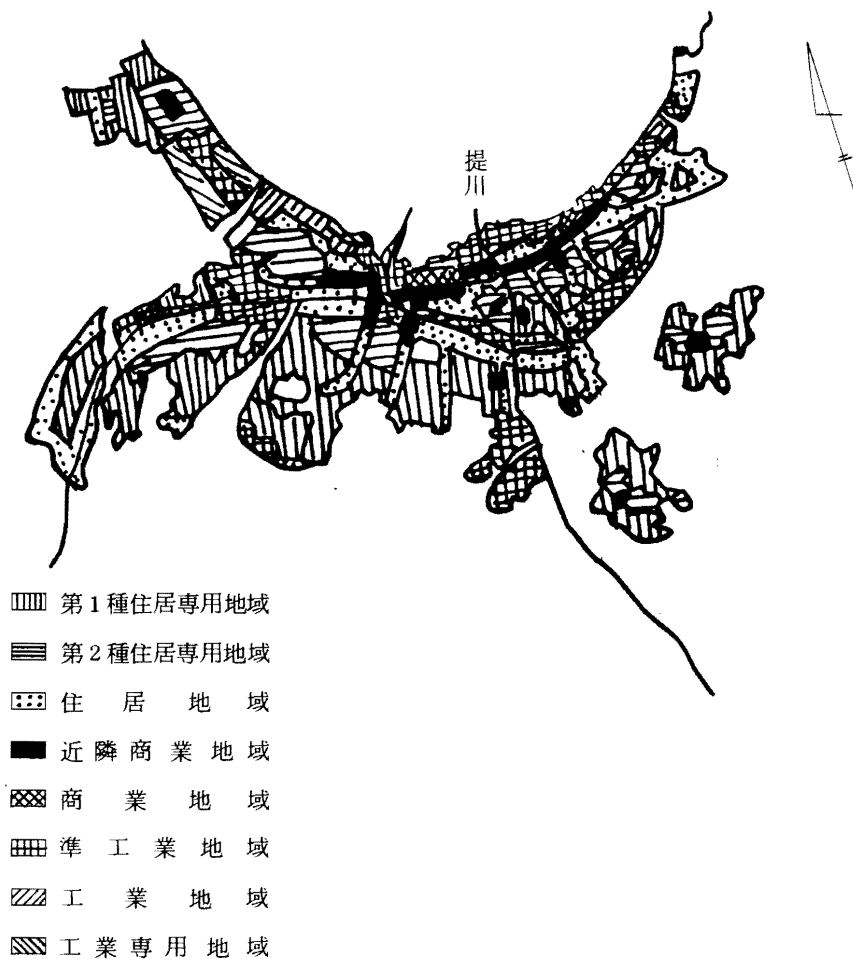


表 2. 用途地域別公害苦情発生状況

用途地域 \ 種 別	騒 音	振 動	悪 臭	大 汚 気 染	水 汚 質 濁	地 沈 盤 下	その他	計
第 1 種住居専用地域	11	1	7	4	1			24
第 2 種住居専用地域	5	2	2				1	10
住 居 地 域	8	2	5	3				18
近 隣 商 業 地 域	3	1	1					5
商 業 地 域	9			1		1		11
準 工 業 地 域	4	1	2	1				8
工 業 地 域			1					1
工 業 専 用 地 域								0
市 街 化 調 整 区 域	3		5	1				9

これを見ると、第 1 種住居専用地域、住居地域に苦情が多く、次いで商業地域、第 2 種住居専用地域、準工業地域の順となっており、住工混在の都市型を呈している。

低層住宅地である第 1 種住居専用地域に、騒音の苦情が多いのはやはり、都市のスプロール化に伴う住宅建設のためと思われる。また、住宅地の拡大が養鶏場や養豚場と住居を近づけてきたことによって、悪臭の苦情も多い。

商業地域においては、圧倒的に騒音の苦情が多いが、この原因としては、ビル建設・雑居ビルからのもの、他にバー・キャバレーの深夜営業からのものとなっている。

また、都市公害を防ぐのが目的である市街化調整区域からも苦情が発生していることも見逃せない。

## Ⅶ 結論

以上、青森市に発生した公害について簡単にまとめてみると、騒音・悪臭が大きなウェイトを占めており、地域別にみた場合には、中・南部が東・西部に比べ苦情が若干多く、騒音は建設作業などの関係から中部、都市のスプロール化に伴う南部地域が多く、悪臭では畜産業の多い西・南部地域に多くなっている。また、都市構造との関連では、第 1 種住居専用地域、住居地域に多く、次いで商業地域、準工業地域の順となっており、住工混在の都市型を呈しているといえる。

最後に、公害の対策及び将来について述べると、独力で防止対策のできない零細企業に対する資金の融資、集団移転による総合的な公害防止、また、緑地帯による工場地域と住宅地域との分離策も考えられる。

いずれにしろ、公害対策の究極の目的は、過去の失敗をくり返さず、事前に住民の健康を保護し、住民 1 人 1 人が平和で働きやすい場を造ることにある。そのためには、国・地方自治体・企業・住民が各々の立場で、総力を結集する必要があると思われる。

〔付記〕

本論文を作成するにあたって、つねに御指導、御助言をいただいた横山弘、水野裕の両先生に深く感謝いたします。

〔参考文献・資料〕

- 山鹿誠治（1964）：都市地理学　大明堂
- 松垣松夫（1973）：西日本特に北九州市の都市公害と都市の地域構造　東北地理 25－3
- 山田安彦（1973）：盛岡市の潜在的公害とその都市構造に関する若干の問題　東北地理 25－3
- 内藤博夫（1973）：東京の工場公害と都市構造　東北地理 25－4
- 山下克彦（1974）：札幌市における都市公害の分布　東北地理 26－2
- 石沢まり子（1979）：青森市の都市構造
- 稲見悦治（1979）：都市の公害　古今書院
- 高橋正雄（1979）：新青森県地誌　北方新社
- 青森市市長公室公害交通安全課（1978）：青森市における公害の現況
- 青森市役所都市計画課（1979）：青森都市計画図